

剪定屋便り

vol,5 落葉樹の剪定

剪定屋 安行椿の稲垣です。
お庭の樹木の管理を
ご自身でやられている方の
参考になる情報をお伝えする
「剪定屋便り」
よろしければご覧ください。

楽しみ方や魅力はたくさん！ただ、お困り事も多い「落葉樹」

夏は日陰を作ってくれて、冬は日当たりが良くなる落葉樹。雰囲気がよく、花や実を楽しめる樹も多いため、人気の樹木です。ただ、冬の存在感が薄くなるが故に気づいたら大きくなりすぎていたり、落ち葉の掃除にお困りの方も多くいらっしゃいます。

そこで、今回は落葉樹のお困りごと別に作業時期や方法をお伝えします。

日々の管理の参考にさせていただければ幸いです。

大きさを一回り以上 小さくしたい

落葉後、12月か1月の剪定がおすすです。切る枝数が多い場合、落葉樹は、木が休眠している冬の間作業をします。ただ、モミジは2月頃に目覚めて水を吸い上げはじめるのに対して、サルスベリは4月に入ってから目覚める等、木によって動きはじめる時期が異なります。そのため、ほとんどの落葉樹が休眠している12月か1月に作業すると間違いありません。

内側の混み入った枝 を整理したい

小さくする場合と同様に落葉後、12月か1月の剪定がおすすです。混み入った枝を整理する場合は、余計な枝を元から切るのがポイントです。数cm枝を残すと切りやすいのですが、その場合、残した部分が枯れて後々邪魔になったり、一気に枝がふいて余計込み入ることになったりします。

春に勢いよく飛び出 てくる枝が気になる

勢いのある枝を判別しやすい6月から7月に剪定してください。その際、枝元から切るのではなく、形を整えるように飛び出ている部分だけつまむイメージの剪定がおすすです。

事情により冬を待た ずにバッサリと切ら なければならない

やむおえず5月から9月のタイミングでまとまった枝を切る場合は、以下のことを試してください。

- ・可能な限り葉が残る位置で切る。
- ・手首より太い枝を切る場合、切り口にカルスメイト等の保護剤を塗る。
- ・葉がなくなる位置で切る場合、園芸テープで太い枝や幹を保護する。

落ち葉の掃除が大変 なので、早めに枝葉 を切っておきたい

紅葉が始まる時期、10月下旬から11月の剪定をおすすします。日差しが強い時期の剪定は、木が傷みやすいので、葉の色が変化してくるまで、可能な限り待っていただけたらと思います。

